

Asia Indicators

発表日: 2023 年 12 月 27 日(金)

台湾・生産は半導体が引き続きけん引役に(Asia Weekly(12/23~12/27))

～タイ・生産は電子部品に堅調さも、自動車や化学製品などの生産鈍化が重石になる動き～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
12/23(月)	(シンガポール) 11 月消費者物価(前年比)	+1.6%	+1.8%	+1.4%
	(台湾) 11 月失業率(季調済)	3.41%	--	3.38%
	11 月鉱工業生産(前年比)	+10.29%	--	+8.81%
12/25(水)	(タイ) 11 月輸出(前年比)	+8.2%	+8.4%	+14.6%
	11 月輸入(前年比)	+0.9%	+2.3%	+15.9%
12/26(木)	(シンガポール) 11 月鉱工業生産(前年比)	+8.5%	+10.0%	+1.2%
12/27(金)	(タイ) 11 月製造業生産(前年比)	▲3.58%	▲0.50%	▲0.62%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

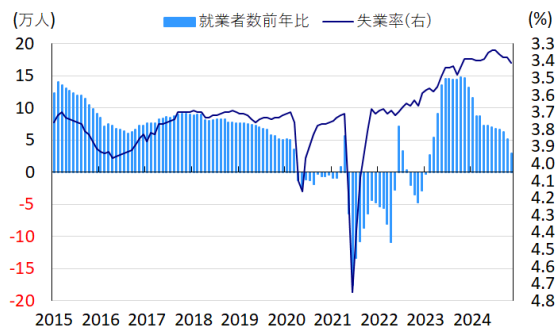
[台湾]～主力の輸出財である半導体などの生産拡大の動きを追い風に、生産活動は堅調な推移をみせる～

23 日に発表された 11 月の失業率(季調済)は 3.41%となり、前月(3.38%)から 0.03pt 悪化して 1 年 1 ヶ月ぶりの水準となっている。失業者数は前月比+0.3 万人と前月(同▲0.1 万人)から 2 ヶ月ぶりの拡大に転じるとともに、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れの動きを強めている。新卒者を中心に失業が拡大する動きがみられるとともに、自発的失業は引き続き拡大傾向で推移している上、非自発的失業の減少ペースも縮小するなど雇用を取り巻く環境が厳しさを増す兆しがうかがえる。雇用者数も前月比▲1.7 万人と前月(同▲0.4 万人)から 2 ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向に転じるなど調整の動きが強まっている。分野別でも、鉱業部門や製造業部門で頭打ちの動きが強まっているほか、比較的堅調な動きをみせてきた建設業のほか、サービス業においても雇用拡大ペースは鈍化しており、幅広い分野で雇用環境に変化が生じている様子がうかがえる。こうした状況を反映して、労働力人口も前月比▲1.4 万人と前月(同▲0.4 万人)から 2 ヶ月連続で減少するなど労働市場への参入意欲が後退しており、労働参加率も 59.27%と前月(59.32%)から▲0.05pt 低下している。

同日に発表された 11 月の鉱工業生産は前年同月比+10.29%となり、前月(同+8.81%)から伸びが加速している。前月比も+2.92%と前月(同▲1.35%)から 2 ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。分野別では、商品市況の低迷を受けて鉱業部門の生産は下振れするとともに、家具をはじめとする木製品関連や皮革製品関連の生産も力強さを欠く推移をみせる一方、縫製品関連の生産は堅調な推移をみせているほか、金属関連やプラスチック関連、ゴム製品関連など素材、部材関連の生産も堅調に推移するとともに、主力の輸出財である半導体など電子部品関連や電気機械関連、輸送用機械関連などで拡大する動

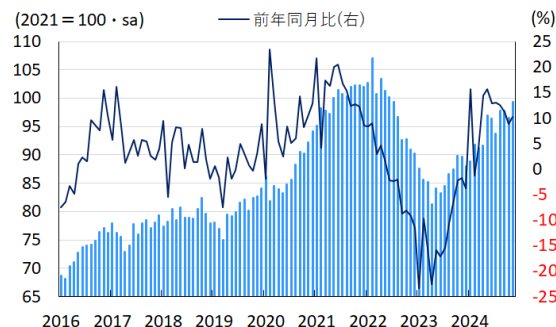
きが続き、生産全体を押し上げる展開が続いている。

図1 TW 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～輸出は頭打ちの動きを強めるなか、輸送用機械や化学製品関連を中心に生産も下振れしている～

25日に発表された11月の輸出額は前年同月比+8.2%となり、前月(同+14.6%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりに減少しているなど一進一退の動きをみせているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である自動車など輸送用機械関連は堅調な動きをみせる一方、電子部品関連や電気機械関連の輸出は鈍化するとともに、前月に大きく上振れした金の輸出がその反動で下振れしたほか、農産品関連や鉱物資源関連の輸出も力強さを欠く動きをみせるなど、幅広い分野で輸出が鈍化している。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けに底堅い動きがみられるものの、米国やEU、日本向けなど主要国向けは軒並み力強さを欠く動きをみせるとともに、ASEAN周辺国向けの下振れが輸出全体の足を引っ張っている。一方の輸入額は前年同月比+0.9%となり、前月(同+15.9%)から伸びが鈍化している。前月比も3ヶ月ぶりの減少に転じていると試算されるなど、底入れの動きに一服感が出ている。財別でも、原油など商品市況の低迷を受けてエネルギー資源関連の輸入が下振れしているほか、輸出の頭打ちを受けて資本財や中間財関連の輸入も鈍化するとともに、消費財関連の輸入も頭打ちの動きを強めるなど全般的に鈍化している。結果、貿易収支は▲2.24億ドルと前月(▲7.94億ドル)から赤字幅が縮小している。

27日に発表された11月の製造業生産は前年同月比▲3.58%と4ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しており、前月(同▲0.62%)からマイナス幅も拡大している。前月比も▲1.99%と前月(同+0.85%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。分野別では、半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連、機械製品化連の生産は堅調な推移をみせる一方、自動車をはじめとする輸送用機械の生産は鈍化するとともに、化学製品関連で生産は大きく下振れするなど、外需関連産業における生産を巡って跛行色が強まっている様子がうかがえる。

図3 TH 貿易動向の推移

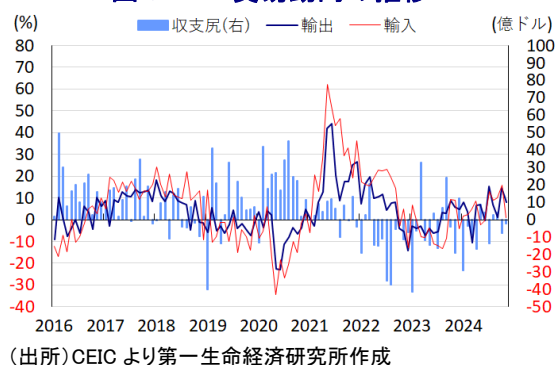
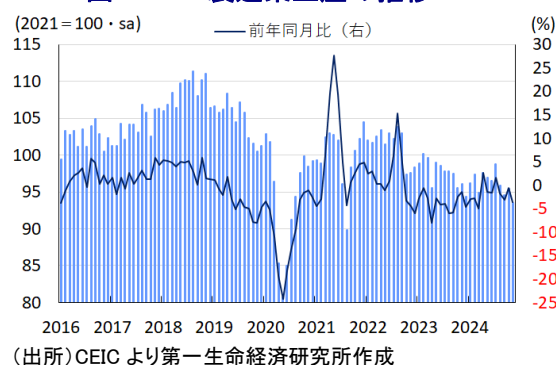


図4 TH 製造業生産の推移

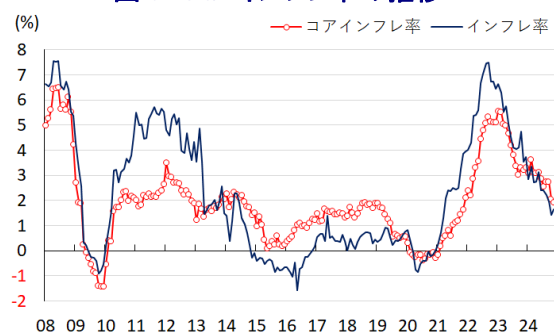


[シンガポール]～インフレ率はわずかに加速もコアインフレ率は一段と鈍化、物価は落ち着いた推移が続く～

23日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+1.6%となり、前月（同+1.4%）から伸びが加速している。前月比も+0.03%とわずかながら前月（同▲0.31%）から2ヶ月ぶりの上昇に転じているものの、原油をはじめとする国際商品市況の低迷の動きを反映してエネルギー価格は頭打ちの動きが続いているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上値が抑えられる展開が続くなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退する動きがみられる。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+1.92%と前月（同+2.06%）から鈍化しており、丸3年ぶりの伸びとなっている。前月比も▲0.02%と前月（同▲0.29%）から2ヶ月連続で下落しており、エネルギー価格の下落を反映して輸送コストに下押し圧力が掛かる動きを受けて幅広く財価格に下押し圧力が掛かりやすい展開が続いているほか、サービス物価も下振れする動きが確認されるなど、全般的にインフレ圧力が後退している様子がうかがえる。

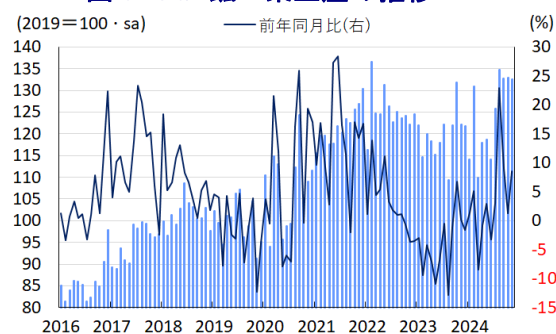
26日に発表された11月の鉱工業生産は前年同月比+8.5%となり、前月（同+1.2%）から伸びが加速している。ただし、前月比は▲0.36%と前月（同+0.13%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きをみせている。シンガポールでは、バイオ・医薬品関連産業の生産が月ごとに上下に大きく振れるとともに、生産全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は前月比▲32.06%と前月（同▲23.99%）から2ヶ月連続で大幅に下落するなど頭打ちの動きを強めていることが影響している。なお、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは前月比+11.04%と前月（同▲1.85%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じるなど、頭打ちの動きを強めてきた流れに変化の兆しがうかがえる。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連や精密機械関連、化学製品関連などで生産が拡大する動きがみられるなど、外需の底堅さがうかがえる。

図5 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

